

contents

活動フォトニュース ..... 2  
 シリーズ この人に聞く 第14回  
 山中章子さん〈ロヒンギャ難民の表情〉  
 ..... 4  
 活動紹介 資料館見学1  
 〈アンネ・フランクの家〉 ..... 6  
 活動日誌 (5月~7月) ..... 7

ユニセフセミナー大阪 2018 開催  
 水の大切さを学び、  
 水を得る喜びを知る



水は身近なテーマ。みな真剣な表情で聞く参加者 (大阪市中央公会堂大会議室)

テーマは「命を育む 水の力」

7月28日に開催された今回のセミナーは、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科の三宅眞実教授、日本ユニセフ協会職員吉田好江さんを迎え、講演と後半のワークショップを通して水の衛生と感染症のかかわり、衛生環境の改善活動、安定した水の確保への取り組みについて考えました。

最初は三宅教授の「水の衛生と下痢・感染症」の講演から始まりました。まずは世界で年間使用されている水の量はいくらなのか、では世界ではどれほどの人間が安全な水を使用しているのかという基本的なトピックから入り、その後、汚染された水を飲むことで感染する代表的な感染症および肝障害について、具体的な説明と分かりやすい図を用いて解説され、よく理解することができました。どのような感染症が汚染された水・不衛生な環境

により引き起こされるのか、そしていかに感染症を予防できるのかについて、学ぶきっかけとなりました。

2番目の講演は日本ユニセフ協会職員である吉田好江さんによる「東ティモール ユニセフの水とトイレ支援」でした。講演の前半はユニセフ衛生支援の取り組み、CLTS (Community Lead Total Sanitation) による屋外排泄ゼロを達成するためのアプローチとステップについて。後半は福井県大野市との共同プロジェクトである東ティモール、ウラホー村での給水設備建設の経験を大野市職員の方々、ならびに取材カメラマンと共に、活動時の写真を交えながら、掛け合いのような形でお話していただきました。

そして最後の1時間は、朝から昼までに自分が使用した水の量を計算して、残りの半日をどのように水を節約し

て過ごせるかを考える、「水の大切さを考える」ワークショップが行われました。参加者から面白い節水アイデアが次々と飛び出し、自分の1日に使用する水の量を認識し、水の大切さについて考える初めての体験でした。

世界的にも豊かな水源に恵まれた日本では、水の衛生状態の重要性、そして綺麗な水を日常的に使用できる有難さについて、実感することがあまりありません。そんな身近にあり、当たり前前に使用しているが、実は重要な資源という水。今回のセミナーは途上国でのユニセフの支援、そして汚染された水によって引き起こされる病気を知るというアプローチから、当たり前前に存在する水を再認識し、新たな見方が芽生える良い機会となったと感じます。(大阪ユニセフ協会インターン生・香港中文大学3年生 足立凛々子)



講演1の三宅眞実氏



講演2の吉田好江氏



ユニークな意見で盛り上がったワークショップ